

# 上毛モスリン工場の歴史

| 年号   | 上毛モスリンのできごと                                       | 館林のできごと                      |
|------|---------------------------------------------------|------------------------------|
| 明治 4 |                                                   | 鹿沼置県により館林県が置かれ、のちに、栃木県管轄になる。 |
| 5    |                                                   | 館林郵便取扱所台宿町に設置。               |
| 6    |                                                   | 学校の設立始まる。                    |
| 9    |                                                   | 邑楽郡・群馬県の管轄になる。               |
| 11   |                                                   | 第四十国立銀行、谷越町に開業。              |
| 27   | 荒井藤七と鈴木平三郎がモスリン製織の研究を開始。                          |                              |
| 28   | モスリンとして製織することに成功。                                 |                              |
| 29   | 旧連雀町内の荒井織物工場内に、毛布織合資会社を創立。                        |                              |
| 30   | 工場を旧鞘町の安楽岡佐助所有の空き地に建設。                            | この頃、館林に自転車が入ってくる。            |
| 33   | 汽鐘汽機サイジン等を設置して動力化となる。                             | 館林製粉㈱、代官町に設立。                |
|      |                                                   | 足尾鉾毒事件(川俣事件)おこる。             |
| 35   | 毛布織合資会社を一旦解散し、上毛モスリン株式会社を設立。染色機を設置。               |                              |
| 40   |                                                   | 東武伊勢崎線川俣・足利間開通。              |
|      |                                                   | 館林・中野駅設置。                    |
| 41   | 上毛モスリン㈱が工場を二の丸跡に移転。                               | 館林製粉㈱が館林駅の西に移転。日清製粉㈱と合併。     |
|      | 「モスリン新道」が開通し材木町より軌道が敷かれ、原料及び製品の輸送の便が計られる。         | 日清製粉㈱館林工場が新工場で操業開始。          |
| 42   | 上毛モスリン㈱の工場完成。                                     | 町内電話開通。                      |
| 43   | 操業が開始される。                                         |                              |
|      |                                                   | 東武鉄道伊勢崎線全線開通。                |
| 44   |                                                   | 利根発電㈱開業。                     |
| 大正 3 |                                                   | 館林に電灯・電力を供給。                 |
| 4    | 上毛モスリンに工女夜学会を開設。                                  | 東武鉄道佐野線開通。                   |
| 5    |                                                   |                              |
| 6    | 上毛モスリンで群馬県下で最初のストライキがおこる。                         | 中原鉄道(現東武鉄道小泉線)開通。            |
| 7    |                                                   |                              |
| 9    |                                                   | この頃、館林に自動車が入ってくる。            |
| 11   | 上毛モスリン(株)工場の増築を開始。                                | (戦後恐慌)                       |
| 12   |                                                   | (関東大震災)                      |
| 昭和 元 | 上毛モスリンが債権者から破産の申請をうける。                            | 東武伊勢崎線浅草・館林間複線化。             |
| 2    | 日本興業銀行と日本毛織の共同出資により、上毛モスリンが共立モスリン㈱館林工場と改称。        | 東武伊勢崎線館林・伊勢崎間電化。             |
|      |                                                   | 同佐野線電化。                      |
| 4    |                                                   | (世界大恐慌)                      |
| 16   | 共立モスリン㈱が日本毛織に合併。日本毛織㈱館林工場と改称。                     | (太平洋戦争がおこる)                  |
| 18   | 中島飛行機に貸与。中島飛行機製作所館林分工場と改称。                        | 東武鉄道小泉線電化。                   |
| 20   | GHQの倉庫となる。                                        |                              |
| 21   | 神戸生絲㈱館林製絲工場が館林町大名小路に設立。                           |                              |
| 22   | GHQの許可により、工場を神戸生絲㈱に賃貸し、神戸生絲㈱館林工場となる。              |                              |
| 29   |                                                   | 市制施行により館林市となる。               |
| 31   | 工場の一部に日本燃糸工業㈱を設立し、ナイロン燃糸加工を開始。                    |                              |
| 32   |                                                   | 上水道の供給始まる。                   |
| 47   |                                                   | 東北自動車道館林インターチェンジ開通。          |
| 49   |                                                   | 旧三の丸に文化会館完成。                 |
| 53   | 工場の一部が市庁舎建設地となり、旧上毛モスリン事務所が、市へ譲渡される。              |                              |
|      | 旧上毛モスリン事務所1棟附棟札1枚(明治42年12月19日の銘)が、県指定重要文化財に指定される。 |                              |
| 54   | 旧上毛モスリン事務所、曳き移転および復元工事。                           |                              |
| 56   | 第二資料館として開館する。                                     | 市庁舎が二の丸跡地に完成。                |
| 平成 4 | 神戸生絲㈱館林工場が市内羽附旭町に移転。敷地と建物を市へ売却。                   |                              |
|      | 神戸生絲㈱工場内随時調査。                                     |                              |
| 5    | 工場建物解体。跡地は市役所東広場となる。                              |                              |
| 23   | 旧上毛モスリン事務所が、「ぐんま絹遺産」に登録される。                       | (東日本大震災)                     |

群馬県は、県内に残る養蚕、製糸、織物に関わる建造物や民俗芸能等を「ぐんま絹遺産」として認定しています。

工女ぐんまちゃん

## ぐんま絹遺産

# 旧上毛モスリン事務所

群馬県指定重要文化財

ぐんま絹遺産 登録番号：23-6号 登録年月日：平成23年7月14日



明治時代の上毛モスリン(株)の工場



旧上毛モスリン事務所

上毛モスリン株式会社は、館林周辺の技術的伝統である機業を活かして明治35年(1902)に設立されました。その後、共立モスリン株式会社、日本毛織株式会社、中島飛行機、神戸生絲株式会社と変遷し、郷土館林の根幹産業として地域の発展に寄与してきました。

この建物は、明治41年(1908)から43年(1910)にかけて館林城二の丸跡(現在の市役所付近)に上毛モスリンの新工場を建築した際に建てられ、事務所として使われてきたものです。昭和53年(1978)、市庁舎建設の際に市の所有となりました。群馬県の重要文化財に指定され、保存のため現在地に曳き移転し、昭和56年(1981)に第二資料館として開館しました。

県内の織物の遺産として貴重な建物であるため、平成23年(2011)には「ぐんま絹遺産」に登録されました。

## みどころMAP



モスリンとは、

細い単糸を使った平織りの布のことです。日本では、羊毛生地 of ウールモスリンを指します。



上下開閉式の窓

ロープと滑車、重りが付いていて途中で手を離しても落ちてこない縦長の上げ下げ式の窓です。

2F

和風と洋風建築

日本建築の特徴である、尺貫法を用いた入母屋造りでありながら、洋風建築の特徴である張り出しの浅い屋根となっています。



左右対称の外観【シンメトリー】

西洋建築の特徴が取り入れられています。

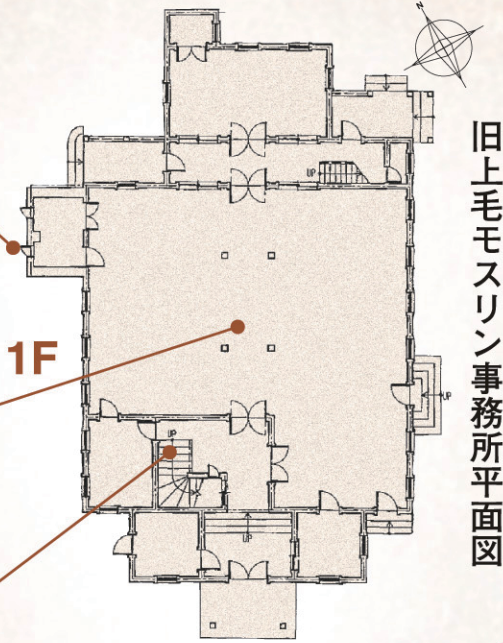
洋風の小屋組み【トラス】

地震や風などの力を受けてもゆがみにくいように、筋かいが入っていて、三角形が組み合わさった骨組み(トラス)となっています。広い開放的な空間を生み出すためには、この小屋組みが使われました。



金庫と書庫

会社の大切なものを保管するための、金庫と書庫は、外壁が耐火構造で煉瓦づくりとなっています。また、明治・大正期の西洋風の建物は赤レンガの使用がひとつのステイタスでした。



旧上毛モスリン事務所平面図

1F

柱

4本のケヤキの柱は、中央に丸みをおびた洋風建築のエンタシスになっています。



階段

西洋建築の特徴でもある折階段が取り入れられています。

洋風の意匠

西洋においても「8」は縁起がよい数字とされていました。

